

成果指標				
成果指標	窓口対応件数			
指標設定の考え方	目標を数値化することは適当でないため、あえて目標を掲げない。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目 標	0	0	0	0
実 績	337	316	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	より迅速に処理ができるように研さんを積むとともに、基本的な事項についての窓口対応ができる職員を増やし、お客さまを待たせないような対応をしていく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	行政が行うべき基本的な業務である。窓口職員が来庁者の疑問・質問に対して迅速に対応し、複数業務をこなすことができるよう研鑽を深めることが必要とされる。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題